

平成29年度(2017)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
花・野菜技術センター 一年報

平成30年10月

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
農業研究本部 花・野菜技術センター

平成29年度
花・野菜技術センター年報
目次

I 総説

1. 沿革	1
2. 位置および土壌	2
3. 用地および利用区分	2
4. 機構	2
5. 職員	3
6. 収入支出決算額	4
7. 建物	5
8. 施設および備品	6

II 作況

1. 気象概要	7
2. 野菜類の生育状況	7

III 事業の推進方向と成果の概要

1. 研究部	10
2. 技術普及室	12

IV 試験研究および地域支援等活動の課題名

1. 花き野菜に関する試験	13
2. 栽培環境に関する試験	14
3. 病害虫に関する試験	15
4. 技術体系化に関する試験	15
5. 地域支援に関する試験等	15

V 研修事業の概要

1. 概要	16
2. 研修事業の推進	16
3. 北海道花き・野菜技術研修	17
4. 研修ほ場等作付概要	21

VI 研究発表並びに普及事項

1. 研究報告・資料	22
2. 印刷刊行物	24
3. 普及事項	24

VII その他

1. 職員の研修	25
2. 見学・参観	25
3. 研修生の受入れ（研修事業以外）	26
4. 委員会活動	26
5. 公開デー2017の実施	27
6. 講師等の派遣	27
7. 各種委員	28

VIII 自己点検への対応

自己点検への対応	29
----------	----

I 総 説

1. 沿革

(1) 設立の趣旨と経過

当センターは、本道農業の戦略作物である花き・野菜生産の一層の振興を図るため、試験研究部門とその技術を普及する部門を一体化し、相互の連携の下に総合的な機能を果たす拠点施設として、平成8年度に設立された。

試験研究では、北海道立総合研究機構の農業試験場における花き・野菜の中核的研究機関として、関係場との分担を図りながら、新品種の開発、栽培技術および流通技術等に関する試験を効率的に推進し、また、技術普及・研修では、開発された新技術を重点的かつ効率的に普及指導し、地域への定着を図るとともに、生産者や指導者等に対する技術指導はもとより、「開かれた試験場」として、一般消費者をも対象とした啓発研修を行うとしている。

平成4年度に調査費、同5年度には設計費が予算化された。平成6年度より道立滝川畜産試験場内に研究棟などの建設、ほ場の整備が開始され、同7年度には付属施設、研修寮、温室などすべての施設の建設と備品の納入も完了した。一部、幹線などの舗装工事、外構工事等を平成8年度に残したが、同年3月には「北海道立農業試験場条例」を改正、4月に職員が配置され、業務を開始した。8月30日には、北海道知事、滝川市長、農業団体など関係者を迎え、開所式を開催した。平成9年度より本格的に試験研究、研修などを開始、平成10年度以降もハウスの移転、新設など環境の整備が進み、着実に成果をあげている。

(2) 組織機構の変遷

平成8年4月に場長以下、総務部、研究部、専門技術員室の2部1室体制でスタートしたが、場長および研修主査を除く総務部は隣接する滝川畜産試験場との兼務体制であった。

平成12年4月、道立畜産試験場の再編に伴い、場長以下、総務部の兼務体制が解かれ、専任の体制となった。

また、道立農業試験場の機構改革により、専門技術員室は発展的に解消し、技術普及部が新設さ

れ、技術普及体制の強化が図られた。

平成22年4月、22道立試験研究機関を統合し創設された地方独立行政法人北海道立総合研究機構の農業研究本部の一員として、3グループからなる研究部と総務課の体制で再スタートし、道所属の普及指導員が駐在する技術普及室が設置された。

(3) 試験研究体制と推進方向

研究部は、平成8年度は花き2科、野菜2科、土壌肥料科、病虫科の6科体制であったが、平成12年度に花き科、野菜科、園芸環境科、病虫科の4科体制となった。平成18年度には園芸環境科を栽培環境科と改称した。平成22年度からは、旧花き科・野菜科を統合した花き野菜グループ、旧栽培環境科・病虫科からなる生産環境グループに加えて、旧技術普及部の研修・地域対応と旧総務部管理科機能を併せた技術研修グループからなる3グループ体制となった。

当センターは、花き・野菜に関する試験研究を行う専門場に位置づけられ、品種・栽培部門と栽培環境・病害虫の環境部門が一体化した総合的な試験研究を効率的に推進することが期待されている。

また、花き・野菜の試験研究の中核的機関として、農業研究本部、各場との連携の下に花き・野菜に関する試験研究の企画調整や地域対応研究も担っている。

(4) 研修体制および技術普及と推進方向

当センターにおける重要な業務として、試験研究とともに技術研修と技術普及がある。

技術研修は、試験研究で開発または体系化された新技術の生産現場への速やかで効率的な伝達普及を目的として、農業技術指導者、中核的農業者などを対象に実施している。長期的な専門研修から市民セミナーまで幅広い研修内容となっており、研究員と普及指導員、各農試の協力のほか、外部講師を招き指導している。研修事業に対応した研修寮、技術研修室、研修用ほ場・温室が整備されるとともに、研修担当者が配置され平成8年

度の準備期間を経て、平成9年度から本格的に研修事業を開始した。平成12年度に研修業務が総務部から新設の技術普及部に移管し、さらに、平成22年度には研修事業と技術支援、旧管理科業務を担う技術研修グループが新設され研究部にこれら業務が移管することとなった。

そのほか、当センターには開放実験室、展示温室、展示ほ場も設置され、農業関係者ばかりでなく、一般道民にも「開かれた試験場」として利用できる試験研究機関を目指している。

普及部門は、平成8年度より専門技術員室（滝川専技室）が設置され、普及支援活動や技術相談の機能を果たしてきたが、平成12年度に専門技術員と研究職員および研修担当者からなる技術普及部が新設され、普及・技術支援・研修に対応してきた。さらに、研究部と技術普及部で組織された技術体系化チームによる新技術の普及推進体制が整えられた。平成18年には農業改良助長法の改正により、専門技術員が普及指導員へ一元化されるとともに道立農試機構改正による技術普及部の体制も変更した。

また、平成22年度より、独法化による技術普及部の廃止にともない技術普及室が新設され、道所属の普及指導員が駐在して普及業務を担っている。

2. 位置および土壌

滝川市東滝川735番地

北緯43° 35′ 東経141° 59′

滝川市街より空知川に沿って東北に約8km、JR根室本線東滝川駅より約1kmにある。中央バス滝川ターミナルより赤平芦別方面行きバスに約13分間乗車し、花・野菜技術センター入口で下車、徒歩15分（約1km）。道央自動車道滝川インターチェンジより国道38号線を経由し車で5～6分。

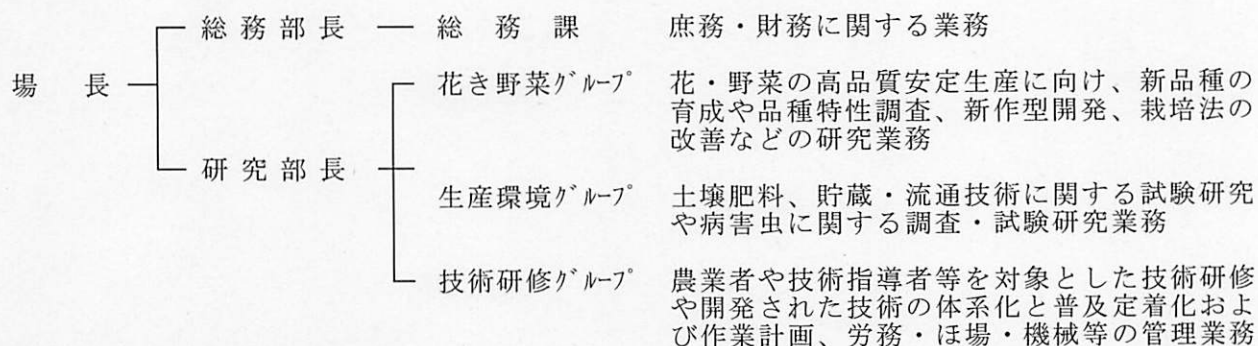
本センターは洪積台地（地形は低位段丘、平坦～緩傾斜）にあり、土壌の種類は細粒灰色台地土（暗色表層疑似グライ土）である。しかし、圃場整備により、作土層（40cm）は旧表土22cmに砂質軽石流堆積物を18cm客土、混和している。

ハウス圃場は酸性褐色森林土の客入土にバーク堆肥、土壌改良資材（炭カル）を投入し、改良した。平成9年、さらに砂質軽石流堆積物15cm程度を客土、混和した。

3. 用地および利用区分

総面積	51.8ha
建物敷地	19.2ha
庁舎	10.2ha
調査棟・温室	3.7ha
機械庫その他	5.3ha
畑	31.0ha
試験・展示・研修圃場	26.7ha
ハウス・枠圃場	4.3ha
道路用地	1.6ha

4. 機 構 （平成30年3月31日現在）



花・野菜技術センター技術普及室*

上席普及指導員 — 主任普及指導員

普及センター等への支援、専門技術の調査研究

(* 所属：北海道農政部生産振興局技術普及課)

5. 職員

(1) 職員数 (平成30年3月31日現在)

区分	場長	部長	総務課	花き野菜G	生産環境G	技術研修G	計
研究(プロパー)		1		7	6	3	17
研究支援(プロパー)			2			5	7
研究支援(道派遣)	1	1	3			2	7
計	1	2	(兼務1外数) 5	7	6	10	31

(2) 現職員名簿 (平成30年3月31日現在)

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名	
総務部	場長	秋元 勝彦	生産環境G	研究主査	田丸 浩幸	
	総務部長	高林 仁和	"	研究主査	野田 智昭	
	総務課	総務課長(兼)	"	主査(病虫)	佐々木 純	
	"	主査(総務)	"	研究主査	白井 佳代	
	"	主査(調整)	市川 雅一	技術研修G	研究主幹	福川 英司
	"	指導主任	岩橋 広樹	"	主査(技術研修)	柳田 大介
	"	主任	佐藤 勝宏	"	主査(技術研修)	植野 玲一郎
研究部	"	"	"	主査(研修)	清水 政宏	
	研究部長	川岸 康司	"	専門主任	高橋 英樹	
	花き野菜G	研究主幹	"	"	南 貴夫	
	"	主査(花き)	"	"	寺口 佳孝	
	"	主査(野菜)	黒島 学	"	"	北 和宏
	"	研究主査	田縁 勝洋	"	主任	及川 忠
	"	研究主任	木村 文彦	"	"	玉川 忠
生産環境G	"	"	(道技術普及室)	上席普及指導員	宮町 良治	
	"	研究職員	"	主任普及指導員	小林 孝夫	
	"	研究主幹	"			
"	主査(栽培環境)	後藤 英次				

(3) 転入・採用

職名	氏名	採用転入年月日	備考
場長	秋元 勝彦	29. 4. 1	農政部畜産振興課
総務部 総務課 主査(総務)	横尾 修	29. 4. 1	空知総合振興局農務課
研究部 研究部長	川岸 康司	29. 4. 1	農業研究本部上川農業試験場
研究部 花き野菜G 研究職員	古山 真一	29. 4. 1	新規採用
研究部 技術研修G 専門主任	北 和宏	29. 4. 1	農業研究本部中央農業試験場遺伝資源部

(4) 転出・退職

職 名	氏 名	転出退職年月日	備 考
場長	長 沢 基	29. 3 . 31	定年退職
総務部 総務課 主査 (総務)	新 津 康 子	29. 4 . 1	空知総合振興局環境生活課
研究部 研究部長	安 積 大 治	29. 4 . 1	農業研究本部企画調整部
研究部 花き野菜G 主任研究員	生 方 雅 男	29. 3 . 31	勸奨退職

6. 収入支出決算額

(1) 収入決算額 (単位：円)

科 目	決 算 額
技術普及指導手数料	301,097
農産物売払収入 (うち花・野菜技術センター分)	514,000(農研本部配分を含む。) (96,744)
畜産物売払収入	2,552,000(農研本部配分を含む。)
不用品売払収入	0
法人財産使用料等	10,000
その他雑収入	0
共同研究費負担金	2,000,000
国庫受託研究収入	500,000
道受託研究収入	1,411,080
その他受託研究収入	9,116,000
計	16,404,177

※事業費支弁人件費振替額及び施設整備費補助金収入を含まない

(2) 支出決算額 (単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	繰 越 額	残 額
戦略研究費	2,400,000	1,980,117	419,883	0
重点研究費	6,400,000	6,399,013	0	987
職員研究奨励費	0	0	0	0
経常研究費	12,100,000	12,100,000	0	0
研究開発推進費	0	0	0	0
技術普及指導費	5,776,697	5,776,697	0	0
研究用備品整備費	2,905,888	2,875,888	0	30,000
維持管理経費	81,872,040	81,858,808	0	13,232
運営経費	49,775,250	49,758,594	0	16,656
共同研究費	2,000,000	2,000,000	0	0
国庫受託研究費	500,000	500,000	0	0
道受託研究費	1,412,000	1,411,080	0	920
その他受託研究費	9,118,196	9,108,515	0	9,681
計	174,260,071	173,768,712	419,883	71,476

※事業費支弁人件費振替額及び施設整備費を除く

7. 建 物

(1) 現有（平成30年3月31日現在）

名 称	構 造	面 積
事務庁舎	レンガ造2階	449.86 m ²
総合研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	721.36
農機具格納庫	木造平屋	233.00
総務課第2車庫	〃	43.74
庁舎2号物置	〃	49.58
第2運動器具庫	〃	24.79
運動具庫	〃	5.04
管理科油類格納庫	ブロック造平屋	5.69
管理科職員詰所	木造平屋	106.92
機材庫	鉄骨平屋	1,033.46
農業機械格納庫	〃	569.16
総合車庫	〃	187.20
花・野菜技術センター研究庁舎	鉄筋コンクリート2階	2,104.73
展示温室	鉄骨平屋	118.87
研修宿泊棟	鉄筋コンクリート2階	1,205.84
花き・野菜調査棟	鉄骨平屋	384.00
病虫・土壌作物調査棟	〃	390.00
保鮮実験棟	〃	232.80
花き・野菜詰所	〃	141.62
床土置場・土詰播種作業棟	〃	553.80
農機具格納庫・車庫棟	〃	659.34
電気室棟	〃	66.30
花き温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
〃 -3	〃	166.00
野菜温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
〃 -3	〃	166.00
病虫温室	〃	166.00
土肥温室	〃	166.00
研修温室-1	〃	290.25
〃 -2	〃	290.25
環境制御温室-1	〃	166.00
〃 -2	〃	166.00
人工気象室	〃	80.18
ミスト室	〃	164.20
参観者トイレ	〃	37.96
来園者トイレ	鉄筋コンクリート平屋	29.25
総務課倉庫	木造平屋	43.74
圃場避難棟-1	〃	29.16
〃 -2	〃	29.16

<続き>

名 称	構 造	面 積
総務課物置 3	木造平屋	26.46 m ²
〃 4	〃	26.46
〃 5	〃	14.87
第2研修寮	ブロック造平屋	122.50
第2研修寮物置	木造平屋	9.93

8. 施設および備品

(1) 新たに設置した施設

名 称	構 造	数量	新設年月日	価 格	摘 要
該当なし					

(2) 新たに購入した備品 (50万円以上)

品 名	数量	規格および型式	金 額	配 置
軽貨物自動車	1	4AT、4輪駆動 ダイハツ S510P-TQRF	924,360	技術研修G
温水高圧洗浄機	1	㈱岡常歯車製作所 MR-775-1	864,000	技術研修G
果実非破壊測定器	1	千代田電子工業㈱ CD-H100 (おいし果)	661,500	花き野菜G
卓上製本機	1	ナカバヤシ㈱ ドジスターNB-300B	612,922	総務課
ブームスプレーヤ	1	㈱丸山製作所 BSM-640SLT(14M)	2,198,000	技術研修G

Ⅱ 作 況

1. 気象概要

(1) 冬期間の経過

冬期間（11月～3月）の平均気温は2月中旬および3月はやや高かったが、その他は平年並からやや低く推移した。降水量は11月下旬～12月下旬および1月上～下旬にかけてはやや少なかった。日照時間は11月上旬は極めて少なく、1月上旬は多かったが、2月中旬および3月上旬は少く、3月中旬は極めて多かった。

(2) 農耕期間の経過

農耕期間（5月から9月）の平均気温は5月中～下旬および7月上～中旬はやや高く推移したが、6月上～下旬および8月中旬～9月中旬はやや低く推移した。農耕期間の積算気温は2631.0℃で平年の95.5%であった。

降水量は5月上旬は少なかったが、6月上～7月下旬は多かった。また、9月上旬は極めて少なく、中旬は極めて多かったが、下旬は少なかった。農耕期間の積算降水量は638mmで平年の114.7%であった。

日照時間は5月下旬～6月上旬は少なかったが、6月中は多く、下旬は少なかった。また、9月上旬は多く、中旬は少なかった。農耕期間の積算日照時間は879.9時間で平年の102.1%であった。

本年農耕期間の気象は、気温はやや低く推移し、降水量は多く、日照時間は平年並であった。

(3) 月別の経過

4月：平均気温は上～中旬は高く、下旬は平年並であった。降水量は中旬がやや多かったが他は平年並であった。日照時間は上旬はやや多く、中旬～下旬は平年並であった。

5月：平均気温は上旬は平年並で、中～下旬はやや高く推移した。降水量は上旬が多く、中～下旬は平年並であった。日照時間は上～中旬はやや多く、下旬はやや少なかった。

6月：平均気温は平年に比べ低く推移した。降水量は上旬、下旬で多く、日照時間は上旬、下旬は少なく、中旬は多かった。

7月：平均気温は上～中旬はやや高く、下旬は平年並であった。降水量は上～中旬が平年並で下旬は多かった。日照時間は上旬と下旬はやや多く、中旬は平年並であった。

8月：平均気温は上旬と下旬は平年並で中旬は低かった。降水量は上～中旬は少なかったが、下旬は平年並であった。日照時間は上旬はやや多く、中～下旬は平年並であった。

9月：平均気温は上～中旬は低く、下旬は平年並に推移した。降水量は上旬は極めて少なかったが、中旬は極めて多く、下旬は多かった。日照時間は上旬は極めて多かったが、中旬は少なく、下旬は平年並であった。

10月：平均気温は平年並であった。降水量は上旬は多く、中旬以降は平年並で、日照時間は上～中旬は平年並で下旬は多かった。

2. 野菜類の生育状況

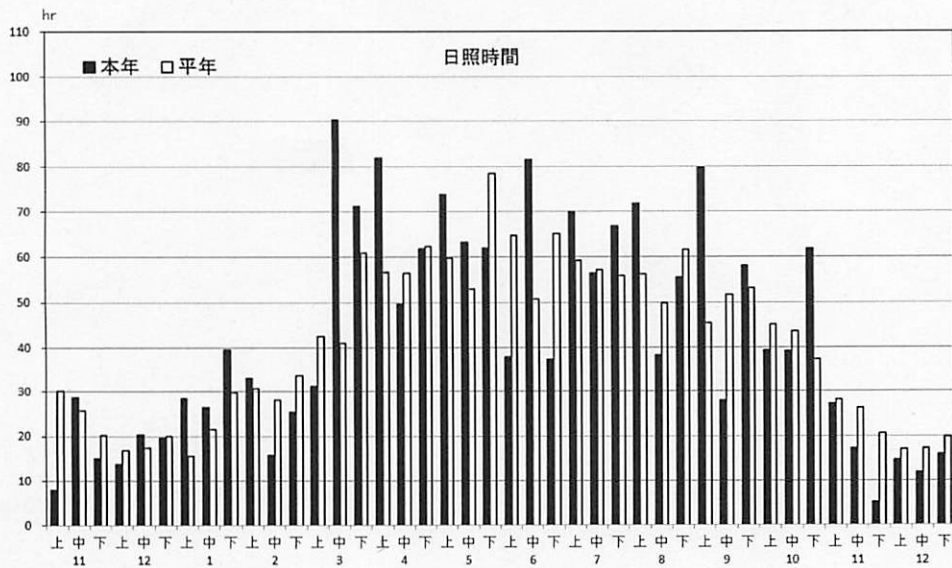
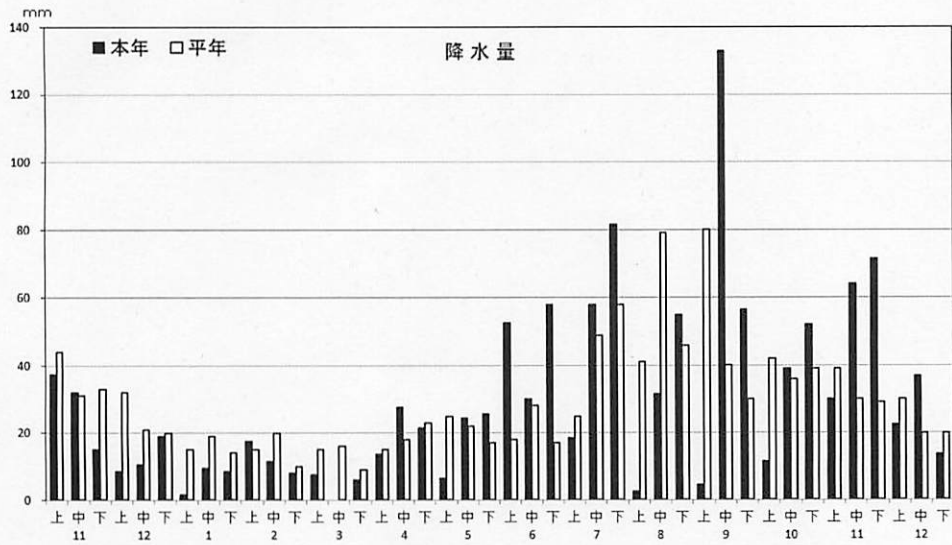
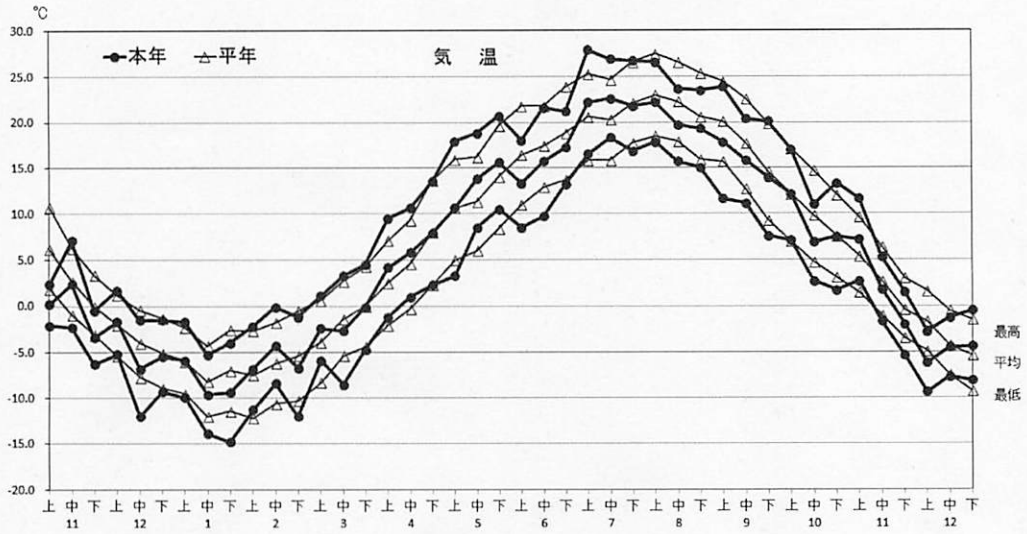
(1) いちご（対象品種：「けんたろう」）

平成28年8月19日定植の無加温半促成作型で土耕栽培した。9月上旬および下旬の気温が平年より約2℃高かったが、10月下旬～11月下旬は3.0～5.2℃低かった。ハウス内融雪期は平年より3日早い3月17日であり、開花始期は4月15日で平年より2日早かった。収穫始期は5月20日となり平年並であった。5月下旬の気温が平年に比べ2.1℃高かったが、6月上～中旬が0.9～1.6℃低かったため、収穫後半の果実肥大が良好となった。このため、規格内収穫果数が189千個/10aと平年より29%多くなり、規格内収量が平年より29%多収の2474kg/10aとなった。規格内一果重は13.1g、Brixは9.6%で平年並みであった。

(2) たまねぎ（対象品種：「北もみじ2000」）

播種期は3月1日、定植期は5月8日の普通作型で栽培した。出芽、苗の生育は順調であった。定植後、気温は平年並みに経過し、移植5日後に降雨が多く活着は良好であった。

6月の気温が低く、降水量が多く抽台率は0.6%とやや多かった。7月上旬は気温が高く降水量が少なかったが、7月下旬にまとまった降雨があり、気温も高く経過したことから地上部の生育は回復し、球肥大は順調に進んだ。8月中旬以降、圃場の保水性が良かったことから倒伏、枯葉の進みは緩慢であった。収量に影響する病害虫の発生はほとんど無く、一球重は297g、総収量も881kg/aと多収の年となった。



平成29年度滝川気象図

気象表 (平成27年11月～平成28年12月)

年	月	旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			降水量 (mm)			降水日数 (日)			日照時間 (時間)		
			本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
H28	11	上	0.2	6.2	△ 6.0	2.4	10.7	△ 8.3	-2.1	1.9	△ 4.0	38	44	△ 7	7	6	1	7.9	30.2	△ 22.3
		中	2.4	2.7	△ 0.3	7.1	6.3	0.8	-2.3	-0.9	△ 1.4	32	31	1	7	6	1	28.6	25.7	2.9
		下	-3.4	0.0	△ 3.4	-0.5	3.4	△ 3.9	-6.3	-3.1	△ 3.2	15	33	△ 18	8	6	2	15.1	20.2	△ 5.1
	12	上	-1.7	-2.0	0.3	1.7	1.2	0.5	-5.2	-5.4	0.2	9	32	△ 24	5	6	△ 1	13.8	16.9	△ 3.1
		中	-6.8	-4.0	△ 2.8	-1.5	-0.4	△ 1.1	-12.0	-7.7	△ 4.3	11	21	△ 11	3	6	△ 3	20.3	17.4	2.9
		下	-5.5	-5.1	△ 0.4	-1.5	-1.3	△ 0.2	-9.3	-8.9	△ 0.4	19	20	△ 1	6	6	0	19.6	20.0	△ 0.4
H29	1	上	-5.9	-6.0	0.1	-1.7	-2.3	0.6	-9.9	-9.5	△ 0.4	2	15	△ 14	1	5	△ 4	28.5	15.6	12.9
		中	-9.6	-8.2	△ 1.4	-5.3	-4.3	△ 1.0	-13.9	-12.0	△ 1.9	10	19	△ 10	3	6	△ 3	26.5	21.4	5.1
		下	-9.4	-7.0	△ 2.4	-4.0	-2.6	△ 1.4	-14.8	-11.4	△ 3.4	9	14	△ 6	4	6	△ 2	39.6	29.7	9.9
	2	上	-6.8	-7.5	0.7	-2.2	-2.7	0.5	-11.3	-12.2	0.9	18	15	3	5	6	△ 1	33.1	30.7	2.4
		中	-4.3	-6.2	1.9	-0.1	-1.8	1.7	-8.4	-10.6	2.2	12	20	△ 9	5	6	△ 1	15.8	28.2	△ 12.4
		下	-6.7	-5.4	△ 1.3	-1.2	-0.5	△ 0.7	-12.0	-10.3	△ 1.7	8	10	△ 2	4	4	0	25.3	33.7	△ 8.4
3	上	-2.4	-3.9	1.5	1.1	0.6	0.5	-5.9	-8.3	2.4	8	15	△ 8	4	5	△ 1	31.3	42.4	△ 11.1	
	中	-2.7	-1.4	△ 1.3	3.3	2.7	0.6	-8.5	-5.4	△ 3.1	0	16	△ 16	0	4	△ 4	90.3	41.0	49.3	
	下	-0.1	0.0	△ 0.1	4.5	4.3	0.2	-4.7	-4.4	△ 0.3	6	9	△ 3	3	3	0	71.1	60.8	10.3	
4	上	4.2	2.5	1.7	9.5	7.1	2.4	-1.2	-2.1	0.9	14	15	△ 2	2	4	△ 2	81.8	56.7	25.1	
	中	5.8	4.6	1.2	10.6	9.3	1.3	1.0	-0.3	1.3	28	18	10	5	4	1	49.7	56.5	△ 6.8	
	下	7.9	8.0	△ 0.1	13.5	13.6	△ 0.1	2.3	2.3	0.0	22	23	△ 2	5	4	1	61.8	62.4	△ 0.6	
5	上	10.6	10.6	0.0	17.9	15.9	2.0	3.3	5.0	△ 1.7	7	25	△ 19	3	4	△ 1	73.8	59.7	14.1	
	中	13.8	11.3	2.5	18.8	16.2	2.6	8.5	6.0	2.5	25	22	3	4	2	2	63.3	52.9	10.4	
	下	15.6	14.0	1.6	20.7	19.6	1.1	10.5	8.4	2.1	26	17	9	5	3	2	62.0	78.3	△ 16.3	
6	上	13.3	16.4	△ 3.1	18.0	21.8	△ 3.8	8.5	11.0	△ 2.5	53	18	35	7	3	4	37.8	64.8	△ 27.0	
	中	15.7	17.4	△ 1.7	21.6	21.8	△ 0.2	9.7	12.9	△ 3.2	30	28	2	3	4	△ 1	81.5	50.8	30.7	
	下	17.2	18.8	△ 1.6	21.2	23.9	△ 2.7	13.2	13.7	△ 0.5	58	17	41	4	2	2	37.3	65.1	△ 27.8	
7	上	22.2	20.6	1.6	27.9	25.3	2.6	16.5	15.8	0.7	19	25	△ 7	3	3	0	69.9	59.3	10.6	
	中	22.6	20.3	2.3	26.9	24.7	2.2	18.3	15.8	2.5	58	49	9	5	3	2	56.5	57.2	△ 0.7	
	下	21.8	22.1	△ 0.3	26.7	26.6	0.1	16.8	17.7	△ 0.9	82	58	24	4	3	1	66.7	55.9	10.8	
8	上	22.2	23.0	△ 0.8	26.6	27.5	△ 0.9	17.8	18.5	△ 0.7	3	41	△ 39	2	3	△ 1	71.7	56.3	15.4	
	中	19.7	22.3	△ 2.6	23.7	26.6	△ 2.9	15.7	17.9	△ 2.2	32	79	△ 48	4	4	0	38.2	49.8	△ 11.6	
	下	19.3	20.6	△ 1.3	23.5	25.4	△ 1.9	15.0	15.9	△ 0.9	55	46	9	5	4	1	55.5	61.7	△ 6.2	
9	上	17.8	20.1	△ 2.3	23.9	24.5	△ 0.6	11.6	15.7	△ 4.1	5	80	△ 76	2	5	△ 3	79.6	45.4	34.2	
	中	15.8	17.7	△ 1.9	20.4	22.6	△ 2.2	11.1	12.7	△ 1.6	133	40	93	6	4	2	27.9	51.6	△ 23.7	
	下	13.9	14.6	△ 0.7	20.1	19.9	0.2	7.6	9.3	△ 1.7	57	30	27	7	4	3	58.2	53.1	5.1	
10	上	12.1	12.1	0.0	17.0	17.1	△ 0.1	7.1	7.0	0.1	12	42	△ 31	4	5	△ 1	39.3	45.1	△ 5.8	
	中	6.9	9.8	△ 2.9	11.0	14.7	△ 3.7	2.7	4.8	△ 2.1	39	36	3	5	6	△ 1	39.2	43.6	△ 4.4	
	下	7.5	7.6	△ 0.1	13.3	12.0	1.3	1.7	3.1	△ 1.4	52	39	13	3	5	△ 2	61.8	37.4	24.4	
11	上	7.2	5.4	1.8	11.6	9.6	2.0	2.7	1.5	1.2	30	39	△ 9	6	5	1	27.2	28.1	△ 0.9	
	中	1.8	2.7	△ 0.9	5.3	6.4	△ 1.1	-1.7	-1.0	△ 0.7	64	30	34	8	6	2	17.2	26.3	△ 9.1	
	下	-2.0	-0.4	△ 1.6	1.5	3.0	△ 1.5	-5.4	-3.5	△ 1.9	72	29	43	7	6	1	5.1	20.5	△ 15.4	
12	上	-6.2	-1.7	△ 4.5	-2.8	1.6	△ 4.4	-9.4	-4.9	△ 4.5	23	30	△ 8	8	6	2	14.6	17.1	△ 2.5	
	中	-4.5	-4.3	△ 0.2	-1.3	-0.5	△ 0.8	-7.7	-7.5	△ 0.2	37	20	17	9	6	3	12.0	17.2	△ 5.2	
	下	-4.4	-5.4	1.0	-0.5	-1.5	1.0	-8.1	-9.3	1.2	14	20	△ 7	4	6	△ 2	15.9	19.9	△ 4.0	
5～9月積算			2631.0	2754.3	△ 123.3	3429.7	3494.7	△ 65.0	1876.6	1997.8	△ 121.2	638	556	82	64	51	13	879.9	861.9	18.0
平年比(%)			95.5			98.1			93.9			114.7			125.5			102.1		

注1 滝川地域気象観測所のAMeDAS観測値。

注2 日照時間は太陽電池式(新型)による。

注3 平年値は前10カ年の平均値。

注4 △印は減を示す。

Ⅲ 事業の推進方向と成果の概要

1. 研究部

(1) 花き野菜グループに関する試験

花きでは、切り花の出荷調整および品質管理に関する試験を実施する。野菜では、いちごの新品種育成、野菜の品種特性調査および栽培法改善試験を実施する。また、技術研修グループで実施する花きと野菜の栽培に係る技術研修を分担する。

①「実需ニーズに対応した露地切り花の保鮮・出荷期調整技術の確立」では、しゃくやくおよびりんどうについて切り前や貯蔵条件が開花率および花持ちに及ぼす影響について明らかにした。

②「高温期の道外移出に対応した一年生切り花の品質管理技術」ではひまわり、なでしこ等5品目について、前処理条件および輸送条件が花持ちに及ぼす影響を明らかにした。

③「春どり作型向け多収性いちご新品種の育成」では、「けんたろう」並の果実品質を有する春どり作型向け多収性いちご品種の育成を目標に、交配および育成系統の選抜を行った。「24交7-43」を「空知交37号」の系統名を付し生産力検定および地域適応性検定試験に供試することにした。生産力予備試験では「23交13-5」の検定を中止し、「25交13-39」を新たに供試することにした。

④「野菜地域適応性検定」では、各地域における本年の気象条件下での標準品種および参考品種の生育・収量などを明らかにした。

⑤「保温装備と耐雪性を強化した北海道型ハウスの無加温周年利用技術の確立」では、ハウス周辺部への断熱資材埋設による地温上昇効果を確認した。

⑥「作業管理システム及び生育予測を核とした大規模施設園芸発展スキームの構築」では、いちごの局所冷暖房による増収効果ならびに燃料節減効果の検証を行った。

⑦「生物多様性の保全に配慮した在来種によるトマト授粉用生物資材の開発」では、エゾオオマルハナバチにより授粉したトマトとセイヨウオオマルハナバチにより授粉したトマトを比較したが、有意な差は認められなかった。

⑧「トマトにおける養液栽培システム「ういずOne」を用いた省力低コスト栽培法の確立」では、新たに開発された簡易養液栽培システムを利用しトマト栽培における北海道での養液栽培システム

の適正な栽培技術を検討したが、2本仕立て区（主枝+側枝）と比較して1本仕立て区の収量性が優れた。また、2本仕立ての給液多量区においても1本仕立て区より収量は劣った。

⑨「機械化栽培体系を想定した加工用トマトの栽培法の確立および品質評価と試作品の開発」では、セル成型苗において、摘心位置は、3葉上よりも2葉上の方が収量性が安定する傾向であった。一斉収穫をした場合、5月下旬定植区の方が6月上旬定植区より良果収量が増加した。

⑩「道産メロンの冬季供給を可能とする長期貯蔵出荷体系の確立」では、貯蔵後の果肉硬度と食味の関係が明らかになり、メロンの定植時期と貯蔵後の硬度の関係が明らかとなった。

⑪「ブロッコリーの省力収穫を目指した品種特性の評価」では、ブロッコリーの品種特性を明らかにし、有望な11系統を次年度供試することにした。

⑫「ニンニク在来系統の特性評価試験」では、在来6系統の増殖性を明らかにした。その種苗を使用して生産力検定試験を実施し、ホワイト種の「白玉王」を比較品種として6系統の生産性および主要特性を明らかにする。

⑬「かぼちの茎葉処理機の開発」では、かぼち収穫作業の省力化を図るため、かぼち茎葉処理機を開発するとともに、茎葉処理時に発生する打撲及び加圧が品質に与える影響について評価したが、供試した3品種では、果梗部、側面および花痕部への打撲処理による腐敗はみられなかった。その後の低温貯蔵（5℃）での腐敗も打撲処理の影響は見られなかった。

⑭「MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度流通体系化実証」では、MA包装資材を活用した道産赤肉メロンの船便輸出について検討し、7月に行った「ルピアレッド」に対する蔵置試験では、貯蔵2週間で果肉の十分な軟化が認められ、棚持ちが短いことが明らかとなった。「レッド113」を用いたシンガポールへの輸出実証試験では、果実品質が保持され、MA包装資材を利用した船便輸出の実用性が確認された。

⑮「農業資材試験」では、実エンドウに対する除草剤1点について成績をとりまとめた。

(2) 生産環境グループに関する試験

生産環境グループは、花き・野菜の肥培管理や貯蔵・流通等の栽培環境に関する試験および病害虫に関する試験を実施している。また、技術研修グループで実施する地域支援課題や技術研修を分担する。

1) 栽培環境に関する試験

①「MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度移出体系」では、グリーンアスパラガスに関して、場内での蔵置試験3回と関東向け輸送実証試験1回を実施し、MA包装資材による包装と現状の氷詰め発泡スチロール箱包装および段ボール無包装での鮮度保持状況を比較検討した。また、スイートコーンに関しても、蔵置試験2回と関東向け輸送実証試験2回を実施し、MA包装資材による包装と現状の段ボール無包装での鮮度保持状況を比較検討した。

②「さつまいも生産における収益性向上を目指した育苗体系確立と加工適性の評価」では、蒸切干向け6品種、ペースト向け7品種を栽培して収量性や収穫時期、貯蔵期間の影響を調査するとともに、場内および実需者による加工適性を評価した。

③「トマトにおける養液栽培システム「ういずOne」を用いた省力低コスト栽培法の確立」では、発泡トロ箱を用いた簡易養液栽培システムを利用したミニトマト栽培において、給液量および仕立て方法および培土連用の影響を検討した。

④「加工・業務用途に対応したたまねぎ貯蔵性の解析とエチレン処理による長期貯蔵技術の開発」では、栽培法（直播、移植）、規格、施肥法（全量基肥、基肥＋分施）が貯蔵性に及ぼす影響を検討するため、貯蔵試験を開始した。また、加工・業務用4品種について、エチレン処理による貯蔵試験を開始した。

⑤「北海道のサツマイモのカリ施肥方法の確立」では、カリ施肥量（4段階）および緩効性カリ（ケイ酸カリ）を用いてさつまいもを栽培することにより、そのカリ吸収特性や収量性に及ぼす影響を検討した。過年度の結果も併せて適正なカリ施肥量と緩効性カリ肥料の有用性が整理されたことから、「さつまいもにおける緩効性肥料を用いた窒素・カリ施肥法の改善」としてとりまとめ、指導参考事項となった。

⑥「生理障害診断試験」では5件の診断依頼に対応

した。

⑦「農業農村整備事業に係る土壌調査」では、1地区3箇所土壌調査を実施し、各土壌の特徴と改良対策を示した。

2) 病害虫に関する試験

①「農作物病害虫診断試験」では、50件の診断依頼に対応した。

②「春どり作型向け多収性いちご新品種の育成」では、検定系統「空知37号」について萎凋病の特性検定を実施した。「空知37号」は次年度も検討を継続し、新たに「25交13-39」を供試する。

③「露地栽培加工用トマトの病害発生実態と疫病防除対策の確立」では、空知・石狩管内の現地圃場における病害発生状況調査を実施した。また、場内試験においては、栽培法および気象条件と疫病発生状況の関係や疫病的薬剤防除効果について検討を行った。

④「低濃度エタノールを用いた土壌還元作用による高設栽培いちごの培土消毒法の開発」では、ロックウール培土を対象に、カップを用いた室内試験および高設栽培のモデル試験を実施し、還元消毒の効果を検討した。また、現地実証試験を安平町、苫小牧市において実施した。

⑤「病害虫発生予察調査」では、ねぎのべと病とさび病について、時期ごとの発生量などを調査した。

⑥「農業資材試験」では、殺菌剤19点についてその効果を調査した。また、複数事例で有効性が認められた9点の資材が指導参考事項となった。

(3) 技術研修グループに関する試験

技術研修グループは、地域農業技術支援会議に集められたニーズなど、現地実証が必要な課題について支援を行うとともに、これまでの成果を普及するために現地実証試験等を行っている。

1) 革新的技術導入による地域支援

①「地域の食文化支援のためのたまねぎブランド品種「札幌黄」の安定生産に向けた技術支援」では、札幌市のたまねぎ生産者ほ場において育苗ポット内リン酸増肥が本圃リン酸施肥量削減を可能とすること、高畦移植栽培は収量の高位安定と黒しみ症減少が期待できることを実証できた。得られた知見の一部は平成30年2月27日に開催された、花・野菜新技術セミナーにおいて発表するととも

に、採種指導、栽培講習会、育苗講習会において安定生産技術情報の伝達に努めた。

2. 技術普及室

(1) 推進方向

技術普及室は、地域の試験研究に対する要望を的確に把握し、実用的な技術開発を行うとともに、その迅速な普及・定着を普及組織と一体的に推進するために、技術体系化チーム活動、地域農業の支援（地域農業技術支援会議）、農業改良普及センターへの技術支援を3つの柱として、花き・野菜研修事業および農業大学の研修事業の支援も含めて研究部門、農業改良普及センター、振興局および関係する機関団体と連携を図り活動を展開した。

(2) 成果の概要

1) 地域農業技術支援会議への支援

空知総合振興局の地域農業技術支援会議構成員として参画し、農業研究本部技術普及室・普及センター・振興局と連携し専門場の研究および普及の立場から、花きと野菜に関する課題整理や解決方策を積極的に支援した。三者会議・関係者会議の他、普及センターが主体となったモデル地区の課題解決プロジェクトに参画した。

2) 農業改良普及センター支援と普及指導員研修

普及センターからの支援要請について、専門項目に関する支援要請活動計画に基づき支援した。

また、普及センターが取り組む普及活動に関する要請（重点普及課題、普及課題等）についても、管轄農試技術普及室と連携し積極的に技術支援を行った。

さらに、気象災害や突発的な病害虫の発生に対して、技術普及課および各技術普及室と連携を取りながら迅速に対応した。

普及指導員研修については、花・野菜技術センターで実施する道段階研修の新任者早期養成研修、専門技術研修（花き、野菜）、高度専門技術研修（花き、野菜）について技術普及室のほか花き野菜グループと生産環境グループからの講義・実習等の協力も得て実施し、振興局段階や職場段階での研修についても積極的に支援した。

3) 研修事業への支援

花き・野菜技術研修事業における、講義・実習

および運営等に関する支援を実施した。

その他の研修として、農業大学校等との協力連携による農大稲作経営コース集中講義の支援を行った。

4) その他

営農技術対策の提供や各種事業への助言など、農業者組織や関係機関・各種団体からの要請への支援等を行った。

IV 試験研究および地域支援等活動の課題名

1. 花き野菜に関する試験

(1) 実需ニーズに対応した露地切り花の保鮮・出荷期調整技術の確立 (213281)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G

目的：しゃくやくおよびりんどうについて開花可能な収穫時期を明らかにするとともに、自然エネルギー等を活用した鮮度保持技術を開発する。

(2) 高温期の道外移出に対応した一年生切り花の品質管理技術 (213291)

試験期間：平成29～31年

担当 G：花き野菜G

目的：ひまわり、なでしこ、マトリカリア、スカビオサ、ププレウムを対象として夏季に道外移出する際の品質管理技術を提示し、道内産地から出荷される切り花の品質を向上させる。

(3) 春どり作型向け多収性いちご新品種の育成 (213351)

試験期間：平成25～29年

担当 G：花き野菜G、生産環境G

目的：「けんたろう」並の果実品質を有する春どり作型向け多収性いちご品種（現行基準収量：2t/10a→目標収量：2.5t/10a）を育成する。

(4) 野菜地域適応性検定（いちご、たまねぎ） (213300)

試験期間：昭和63～平成29年

担当 G：花き野菜G、上川農試、道南農試、十勝農試、北見農試

目的：育成系統の各地域における適応性を検討し、新品種育成のための資料を得る。

(5) 保温装備と耐雪性を強化した北海道型ハウスの無加温周年利用技術の確立 (123491)

試験期間：平成29～30年

担当 G：花き野菜G、上川農試、道南農試

目的：ハウス周辺部への断熱資材埋設に

よる地温上昇効果について評価する。

(6) 作業管理システム及び生育予測を核とした大規模施設園芸発展スキームの構築 (623381)

試験期間：平成29～31年

担当 G：花き野菜G

目的：次世代施設園芸北海道拠点におけるいちごの周年安定生産・出荷体制の確立に向け、いちごに対する局所加温および冷却の効果の検証と実証を行う。

(7) 生物多様性の保全に配慮した在来種によるトマト授粉用生物資材の開発 (623372)

試験期間：平成27～29年

担当 G：花き野菜G

目的：エゾオオマルハナバチ系統により授粉したトマトの品質を明らかにする。

(8) トマトにおける養液栽培システム「ういずOne」を用いた省力低コスト栽培法の確立 (513381)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G

目的：簡易養液栽培システムを利用し適正な栽培技術を明らかにする。

(9) 機械化栽培体系を想定した加工用トマトの栽培法の確立および品質評価と試作品の開発 (627581)

試験期間：平成29～31年

担当 G：花き野菜G、食品加工研究センター

目的：加工用トマトの機械化作業体系を検討し、省力化技術を確立する。

(10) 道産メロンの冬季供給を可能とする長期貯蔵出荷体系の確立 (323281)

試験期間：平成29～31年

担当 G：花き野菜G

目的：道産メロンの新たな需要の開拓と消費の拡大をすすめるため、長期貯蔵に対応した栽培管理技術を確立し、道産メロンの冬季流

通システムを構築する。

(11) ブロッコリーの省力収穫を目指した品種特性の評価 (333392)

試験期間：平成29～30年

担当 G：花き野菜G

目的：省力収穫に適したブロッコリー品種を選択する。

(12) ニンニク在来系統の特性評価試験 (723372)

試験期間：平成27年～30年

担当 G：花き野菜G

目的：北海道で収集された複数のニンニク在来系統に関する農業特性を評価し、情報を得ることで道内産のニンニク安定生産への資とする。

(13) かぼちゃの茎葉処理機の開発 (727381)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G、中央農試

目的：かぼちゃの収穫作業の省力化を図るため、かぼちゃの茎葉処理機を開発するとともに、茎葉処理時に発生する打撲及び加圧が品質に与える影響を評価する。

(14) MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度流通体系化実証 (119171)

試験期間：平成27～31年

担当 G：生産環境G、花き野菜G

目的：MA包装資材による品質保持効果について、赤肉メロンの東南アジア向け輸出における効果の検証と活用方法を明らかにする。

(15) 農業資材試験 (729400)

試験期間：昭和40年～

担当 G：花き野菜G（各農試と分担）

目的：野菜に対する除草剤、生育調節剤の実用性を検討する。

2. 栽培環境に関する試験

(1) MA包装資材等の活用による移出青果物の低コスト・高鮮度流通体系化実証 (119171)

試験期間：平成27～31年

担当 G：生産環境G、花き野菜G

目的：MA包装資材による品質保持効果について、グリーンアスパラガスとスイートコーンの首都圏等への移出における効果の検証と活用方法を明らかにする。

(2) さつまいも生産における収益性向上を目指した育苗体系確立と加工適性の評価 (213373)

試験期間：平成27～29年

担当 G：生産環境G

目的：北海道におけるさつまいも栽培に適した苗質、育苗技術を開発するとともに、蒸し切干やペースト等の加工適性を評価し、品種選定を行う。

(3) トマトにおける養液栽培システム「ういずOn e」を用いた省力低コスト栽培法の確立(513381)

試験期間：平成28～30年

担当 G：花き野菜G、生産環境G

目的：発泡トロ箱を用いた簡易養液栽培システムを利用してトマト栽培を行うため、苗の種類、仕立て法、給液量、培土の連用等を検討し、適正な栽培技術を明らかにする。

(4) 加工・業務用途に対応したたまねぎ貯蔵性の解析とエチレン処理による長期貯蔵技術の開発 (333393)

試験期間：平成29～31年

担当 G：生産環境G

目的：加工・業務用途のたまねぎの安定供給に向けて、移植栽培と直播栽培の貯蔵性の差異を明らかにするとともに、エチレン処理による長期貯蔵技術を開発する。

(5) 北海道のサツマイモのかり施肥方法の確立 (725381)

試験期間：平成28～29年

担当 G：生産環境G

目的：北海道で栽培されるさつまいもの生育特性に基づき、適正なかり施肥量を設定するとともに緩効性カリ肥料の効果を明らかにする。

(6) 農作物病害虫診断試験 ②生理障害診断試験
(216500)

試験期間：昭和50年～

担当 G：生産環境G（各農試と分担）

目的：農業改良普及センター、農政部普及指導員を通じて当場に診断を依頼される農作物の生理障害を迅速に診断して、被害を最小限にとどめるための適切な対策を示す。

(7) 農業農村整備事業等に係る土壌調査
(426500)

試験期間：昭和40年～

担当 G：生産環境G（各農試と分担）

目的：北海道が実施する土地改良事業計画に基づき、該当地域の土壌調査を実施する。

3. 病害虫に関する試験

(1) 春どり作型向け多収性いちご新品種の育成
(213351)

試験期間：平成25～29年

担当 G：花き野菜G、生産環境G

目的：「けんたろう」並の果実品質を有する春どり作型向け多収性いちご品種の育成に係る、選抜系統の病害（疫病・萎黄病・萎凋病）抵抗性を検定する。

(2) 露地栽培加工用トマトの病害発生実態と疫病防除対策の確立
(216391)

試験期間：平成29～31年

担当 G：生産環境G

目的：道内の加工用トマト栽培における発生病害を整理するとともに、産地で実際に被害が問題となっている疫病の防除対策を確立する。

(3) 低濃度エタノールを用いた土壌還元作用による高設栽培いちごの培土消毒法の開発 (326391)

試験期間：平成29～31年

担当 G：生産環境G

目的：いちごの高設栽培に用いた培土を充填したまま再利用するため、人や周囲の作物

に影響を及ぼすリスクの少ない、低濃度エタノールを用いた土壌還元作用による消毒法を開発する。

(4) 農作物病害虫診断試験 ①突発及び病害虫診断試験
(216500)

試験期間：昭和50年～

担当 G：生産環境G（各農試と分担）

目的：突発的に発生する病害虫による被害を防止するため、それらの診断を行うと共に、道内で新たに発生した病害虫の情報を記録し、蓄積する。

(5) 病害虫発生予察調査
(426500)

試験期間：昭和16年～

担当 G：生産環境G（各農試と分担）

目的：各地の病害虫発生状況と気象等を踏まえて病害虫の発生を予察し、効率的な防除に資する。当场ではねぎの病害および各種害虫の誘殺状況を調査する。

(6) 農業資材試験 殺菌・殺虫剤
(729400)

試験期間：昭和45年～

担当 G：生産環境G（各農試と分担）

目的：新しい殺菌剤および殺虫剤の花き・野菜の病害虫に対する防除効果と薬害の有無ならびにその実用性を検討する。

4. 技術体系化に関する試験

本年は該当なし

5. 地域支援に関する試験等

(1) 地域の食文化支援のためのたまねぎブランド品種「札幌黄」の安定生産に向けた技術支援
(319971)

試験期間：平成28～29年

担当 G：技術研修G

目的：札幌市内のたまねぎブランド品種「札幌黄」栽培圃場において、リン酸減肥指針を活用した本圃リン酸施肥量削減と高畦移植栽培技術による収量安定並びに球品質向上効果等を実証する。

V 研修事業の概要

1. 概要

本道における花き・野菜の生産振興を支援するため、新技術（品種）の迅速な普及定着や生産を担う人材の育成等を目的とした技術研修を実施した。

2. 研修事業の推進

北海道花き・野菜技術研修に対する理解を深めるため、農政部関係課・農業高校・農業改良普及センター、市町村等への訪問、農業関係団体主催会議にて事業説明を実施した他、場内に専門委員会（研修事業運営委員会）を設置し、計画の策定、事業の円滑な実施・運営等について検討・調整を行った。

(1) 研修事業説明の経過

- 1) 4月13日
市町村等訪問(厚真町、安平町)
- 2) 4月21日
市町村等訪問(上川総合振興局、鷹栖町、上川農業改良普及センター)
- 3) 4月26日
市町村等訪問(豊浦町、伊達市、胆振総合振興局、胆振農業改良普及センター)
- 4) 5月10日
高等学校校長会農業部会
- 5) 5月12日
市町村等訪問(空知総合振興局、空知農業改良普及センター本所)
- 6) 6月16日
市町村等訪問(豊浦町、伊達市、苫小牧市、安平町)
- 7) 7月10日
道公社地区別推進会議(苫小牧市)
市町村等訪問(栗山町、厚真町、JAとまこまい広域)
- 8) 7月13日
道公社地区別推進会議(当麻町)
市町村等訪問(旭川市、上川農業改良普及センター)
- 9) 7月14日
道公社地区別推進会議(北見市)

- 10) 7月24日
道公社地区別推進会議(八雲町)
- 11) 7月25日
道公社地区別推進会議(帯広市)
- 12) 7月26日
道公社地区別推進会議(標茶町)
- 13) 7月28日
道公社地区別推進会議(岩見沢市)
市町村等訪問(空知総合振興局)
- 14) 10月19～20日
胆振管内市町村等訪問
- 15) 11月11日
北海道新規就農フェア
- 16) 1月29日
新規参入予定者(ベーシックセミナー)
- 17) 2月14日
冬野菜セミナー
- 18) 2月20日
空知管内市町村等訪問
- 19) 2月21日
空知管内市町村等訪問
- 20) 2月27日
新技術セミナー

(2) 事業課との打合せ

- 1) 6月8日
相手方：道農政部農業経営課、農産振興課、技術普及課、農業研究本部
場 所：道庁農政部
内 容：研修事業の今後のあり方の検討
- 2) 8月2日～3日
相手方：道農政部農業経営課、農産振興課
場 所：花・野菜技術センター
内 容：技術研修事業視察及び打合せ
- 3) 8月9日
相手方：道農政部農業経営課、農産振興課、技術普及課、農業研究本部
場 所：道庁農政部
内 容：研修事業の今後のあり方の検討

- 4) 9月11日
 相手方：道農政部農業経営課、農産振興課、
 技術普及課、農業研究本部
 場 所：道庁農政部
 内 容：研修事業の今後のあり方の検討

- ・平成29年度ベーシックセミナーについて
- ・花・野菜新技術セミナーについて
- ・平成30年度研修事業実施計画について
- ・総合技術研修アンケート結果について

(3) 専門委員会開催内容

- 1) 研修事業運営委員会の構成
 (平成29年4月現在)
 委員長：福川英司(技術研修G研究主幹)
 副委員長：柳田大介・植野玲一郎(技術研修G)
 委 員：横尾修・市川雅一(総務課)、
 鈴木亮子・黒島学(花き野菜G)、
 後藤英次・佐々木純(生産環境G)
 ワグナーバー：宮町良治(上席普及指導員)、小林
 孝夫(主任普及指導員)
 事務局：清水政宏・高橋英樹(技術研修G)

- イ) 報告事項
 ・平成30年度総合技術研修について

④ 第4回委員会 (1月31日)

- ア) 協議事項
 ・花・野菜新技術セミナー2018について
 ・冬野菜セミナーについて
 ・平成30年度研修事業実施計画について

- イ) 報告事項
 ・平成30年度総合技術研修募集について

⑤ 第5回委員会 (3月16日)

- ア) 協議事項
 ・平成30年度総合技術研修カリキュラムに
 ついて
 ・平成30年度研修事業計画(案)について
 ・平成30年度開催セミナーの検討について

- イ) 報告事項
 ・平成30年度総合技術研修について

2) 開催内容

① 第1回委員会 (6月12日)

- ア) 協議事項
 ・研修事業実施計画について
 ・品目別セミナーについて
 ・フォローアップセミナーについて
 ・ホクレン担い手向け研修(園芸)の連携実
 施について
 イ) 報告事項
 ・平成29年度総合、専門技術研修受講状況に
 ついて

② 第2回委員会 (10月5日)

- ア) 協議事項
 ・品目別セミナーについて
 ・平成29年度ベーシックセミナー及び新技術
 セミナーについて
 ・平成30年度総合技術研修について
 ・研修業務の見直しについて
 ・技術研修実施要領、規程の見直しについて

イ) 報告事項

- ・平成29年度総合、専門技術研修受講状況に
 ついて

③ 第3回委員会 (12月7日)

- ア) 協議事項
 ・冬野菜セミナーについて

3. 北海道花き・野菜技術研修

(1) 専門技術研修

生産者、技術指導者を対象に、高度な専門技術の習得を目的に、課題解決や各種分析技術等についての個別指導を行った。

1) 専門技術研修受講者数

区 分	受講者数
花き栽培コース	—
野菜栽培コース	3名
土壌肥料コース	2名
土壌肥料及び病害虫コース	2名
合 計(延べ)	7名

2) 専門技術研修受講者及び研修内容

氏 名	所 属	期 間	主な研修内容
石黒聖也	ホクレン	5/15～7/7	土壌診断及び病害虫防除技術
中田紘平	ホクレン	5/15～7/7	土壌診断及び病害虫防除技術

西野健太	ホクレン 肥料(株)	5/22～6/2	野菜栽培管理
水谷悦二	ホクレン 肥料(株)	5/22～6/2	野菜栽培管理
丹野恵輔	ホクレン	6/12～9/13	野菜栽培管理
近藤聖	拓殖短大	10/19～20	いちごの作物体分析
大橋悠矢	拓殖短大	10/19～20	いちごの作物体分析

(2) 総合技術研修

生産者、技術指導者を対象に、基礎知識から実践技術までの習得を目的に編成したカリキュラムに基づき総合的な指導を行った。

- 1) 期間 4月11日～10月6日
- 2) 受講者数 野菜コース 5名
- 3) 総合技術研修の受講者

氏名	所属等	備考
榎本久美子	滝川市	野菜コース
菅原克也	名寄市	野菜コース
鈴木佑平	仁木町	野菜コース
鈴木佳奈	仁木町	野菜コース
新村浩幸	当麻町	野菜コース

4) 総合技術研修の実施内容

区分	主な内容(講師)	時間
講義	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌肥料(後藤主査(生産環境G)) ・病害虫防除(岩崎研究主幹(中央農試)、美濃研究主幹、佐々木主査、白井研究主査(生産環境G)) ・施設資材利用等(外部講師) ・主要野菜栽培技術(黒島主査、木村研究主任、宮町上席普及指導員(技術普及室)、福川研究主幹、柳田主査、植野主査(技術研修G)) ・雑草防除の基礎(外部講師) ・野菜の流通と野菜システム(宮町上席普及指導員(技術普及室)) ・青果物鮮度の内部品質と保持(田丸研究主査(生産環境G)) ・経営管理(外部講師) ・農業金融制度(空知総合振興局) ・その他(川岸研究部長、宮町上席普及指導員(技術普及室)、稲川研 	計69時間

	究主幹(中央農試)	
演習	<ul style="list-style-type: none"> ・主要野菜栽培等(木村研究主任、宮町上席普及指導員(技術普及室)、福川研究主幹、柳田主査、植野主査(技術研修G)) ・土壌診断(野田研究主査(生産環境G)) ・病害虫防除技術(岩崎研究主幹(中央農試)、美濃研究主幹、佐々木主査(生産環境G)) ・園芸資材利用法(外部講師) ・雑草防除技術(外部講師) ・ハウス組立(柳田主査、玉川主任他(技術研修G)) ・作業機械操作実習(玉川主任他(技術研修G)) 	野菜110時間
実習	<ul style="list-style-type: none"> ・主要野菜の栽培管理(野菜15品目(講師は講義・実習と同じ)) 	野菜 491時間
その他	卸売市場、先進農家等	野菜 24時間
	ミーティング、栽培計画書作成、報告書作成等	野菜 153時間
合計		野菜 847時間

(3) 基礎技術研修(ベーシックセミナー)

花き及び野菜栽培を志向する新規就農者等の支援を目的に花・野菜栽培に関する基礎知識や技術についての指導を行った。

- 1) 期間 1月29日～2月2日(5日間)
- 2) 受講者数 野菜コース 16名
- 3) 基礎技術研修の実施内容

講義名	時間	講師
野菜栽培概論	野菜 1時間	黒島主査(花き野菜G)
主要品目の栽培技術	野菜 11時間	黒島主査、田縁研究主査、木村研究主任、(花き野菜G)、野田研究主査(生産環境G)、宮町上席普及指導員(技術普及室)、福川研究主幹、柳田主査、植野主査(技

土壌改良と施肥管理	2時間	術研修G 後藤主査(生産環境G)
病害虫	2時間	佐々木主査(生産環境G)
園芸施設資材の特性と 利用技術	2時間	外部講師
野菜の流通と内部品質	2時間	田丸研究主査(生産環境 G)
農地制度の基礎	2時間	外部講師
経営管理概論	3時間	外部講師
新規就農者の経営事例	2時間	農業者ほか
北海道の新顔野菜	2時間	外部講師
花・野菜技術センター の概要、技術開発と普 及	1時間	秋元場長、宮町上席普 及指導員(技術普及室)
計	31時間	

(4) 課題解決研修

農業試験場が開発した技術や品種の迅速な普及定着、生産技術の高位平準化、産地の育成等を目的とした各種セミナーの開催や短期受け入れ研修を実施した。

1) フォローアップセミナー

花き・野菜技術研修の過年度修了者を対象に、技術支援と研修修了者・現研修生の情報交流を目的に開催した。

◇日 時 平成29年6月30日

◇場 所 花・野菜技術センター

◇内 容

- ・研究概要の紹介
- ・研修圃場の紹介
- ・意見交換

◇受講者数 25名

2) 冬野菜セミナー2018

冬季における道産葉菜類の供給強化に資するため、道総研が新たに開発した冬季無加温ビニールハウスでの葉菜類生産技術を紹介し、新技術の現地導入事例の発表を行う冬野菜セミナー2018を開催した。

◇日 時 平成30年2月14日

◇場 所 講演会：旭川市大雪クリスタルホール
現地視察：上川農業試験場

◇内 容

・基調講演

「冬季の道内野菜生産の状況と試験研究への期待」

講師：渡辺農事(株)

北海道営業所長 安達 英人氏

・講 演

①「暖房なしで真冬に葉物野菜を作ろう！」

講師：道南農業試験場地域技術G

研究主任 高濱 雅幹

②「保温装備と耐雪性を強化した北海道型ハウスの無加温周年利用技術確立に向けた取り組み」

講師：上川農業試験場地域技術G

研究主任 地子 立

③「旭川市における現地取組事例報告」

講師：旭川市農業センター 黒田裕一氏

④「初山別村における現地取組事例報告」

講師：留萌農業改良普及センター

専門主任 街道 舞 氏

◇受講者数 210名

3) 花・野菜新技術セミナー2018

平成29年度に新たに開発した野菜の新品種や栽培技術などの研究成果について速やかな普及定着を図るため、農業関係者に対するセミナーを開催した。

◇日 時 平成30年2月27日

◇場 所 たきかわ文化センター

◇内 容

・新技術伝達

①「収量は「カーソン」、味は「紅ぞろい」～北海道加工用にんじんの品種～」

講師：花・野菜技術センター

研究主査 田縁 勝洋

②「スイートコーンにおける生分解性マルチ資材の特性評価」

講師：花・野菜技術センター

研究主幹 鳥越 昌隆

③「やってみよう！新たなきゅうりの多収整枝法」

講師：花・野菜技術センター

研究主任 江原 清

- ④「緩効性肥料を上手にを使ってさつまいもを作ろう」

講師：花・野菜技術センター
研究主査 野田 智昭

- ⑤「対策はこれだ！たまねぎのネギハモグリバエ被害の防ぎ方」

講師：中央農業試験場
研究主幹 岩崎 暁生

- ⑥「北海道でのさつまいも苗のふやし方」

講師：花・野菜技術センター
主査 植野 玲一郎

- ⑦「かぼちゃつるの枯病対策は薬剤防除だけでなく収穫条件と乾燥が大切」

講師：花・野菜技術センター
研究主査 野田 智昭

・農業改良普及センターからの調査研究事例の紹介

「たまねぎブランド品種「札幌黄」における高畦栽培とリン酸減肥の取組」

講師：石狩農業改良普及センター
石狩北部支所 専門普及指導員 竹永 遵一氏
◇受講者 77名

4) 担い手向け研修会（トマト）

農家後継者（就農直後～3年目程度の担い手）を対象に、栽培に関する基礎知識や技術習得を目的とした研修会をホクレン農業総合研究所営農支援センターと共同で開催した。

◇日 時 平成29年8月8～9日
◇場 所 花・野菜技術センター
現地視察：場内ほ場

◇内 容

- ・栽培技術の基礎①（トマト大玉／ミニ）
「作物栽培の基礎について」
講師：ホクレン種苗園芸部 柳山浩之氏
- ・栽培技術の基礎②（トマト大玉／ミニ）
「病害虫に関する基礎、トマトの代表的な病害」
講師：花・野菜技術センター
生産環境G研究主幹 美濃健一
- ・ホクレンからの情報提供
「トマトなどの青果販売情勢」

講師：ホクレン種苗園芸部 原井博人氏
・ホクレンからの情報提供
「新資材紹介等について」

講師：ホクレン施設資材部 松下泰基氏
・総合討論

◇受講者数 4名

(5) 市民セミナー

消費者等を対象に、道産の花・野菜及び当センターに対する理解を深めることを目的とした各種セミナーを開催した。

1) 市民園芸セミナー

◇日 時 平成29年5月11日
◇場 所 花・野菜技術センター
◇内 容
・講 義「上手な野菜づくり～おいしくて病害に強い秋どり赤肉メロン「おくり姫」をつくろう！！～」
講師：北海道農政部技術普及課
上席普及指導員 宮町良治

◇参加者数 29名

2) フラワーデザインセミナー

◇日 時 平成29年8月4日
◇場 所 花・野菜技術センター
◇内 容
・フラワーアレンジメント教室
講師：池坊光明流清美会
宮西祥香氏、金山祥明氏

◇参加者数 20名

(6) その他の研修

1) JICA研修員受入事業（滝川市国際交流事業）

◇日 時 平成29年8月29日
◇場 所 花・野菜技術センター
◇内 容 花・野菜技術センターの概要、試験研究と普及事業との連携等
◇参加者数 11名（モザンビーク共和国）

2) 農業大学校（稲作経営専攻コース）研修生受入

◇日 時 平成29年8月29日～9月1日
◇場 所 花・野菜技術センター

◇内 容 花・野菜技術センターの概要等

◇参加者数 10名

◇場 所 花・野菜技術センター

◇参加者数 2名(モンゴル国研修生)

◇内 容 花・野菜技術センターの概要等

3) JICA草の根技術協力事業(滝川市国際交流事業)

◇日 時 平成29年8月23日

4. 研修ほ場等作付概要

区分	品目	品種	作型
野菜	たまねぎ	・北早生3号、早次郎、レッドハンター、北もみじ2000、オホーツク222	・春まき(移植)
	ね ぎ	・北の匠、元蔵、夏山一本太	・春まき夏秋どり
	キャベツ	・爽月、楽園、カラフレックス、とんがりぼうし	・春まき
	ほうれんそう	・トリトン、晩抽サンホープ	・雨よけ春夏まき
	だいこん	・T-452A、蒼の砦	・春まき
	スイートコーン	・ゴールドラッシュ、クリスピーホワイト	・露地移植
		・ゴールドラッシュ、クリスピーホワイト、ドルチェドリーム	・露地直はん
	トマト	・〔大玉〕CF桃太郎ファイト、麗夏 ・〔ミニ〕オレンジパルチェ、CF千果、キャロル10、ワイルドチェリー、SC6-008	・ハウス夏秋どり
	なす	・あのみより2号、ごちそう、プロスペローサ、カプリス	・半促成
	かぼちゃ	・えびす、味平DX	・露地ポリ鉢育苗
		・えびす、ほっとけ栗たん(TC2A)	・露地セル育苗
	メロン	・ルピアレッド、北かれん、ファイングリーン	・無加温半促成
	いちご	・すずあかね、よつぼし	・夏秋どり(高設栽培)
	レタス	・ノーチップ、スパーク、シルル、ロマリア	・春夏まき
	アスパラガス	・スーパーウエルカム、ガインリム、ゼンユウガリパー	・春どり露地(定植5年目)
・ウエルカム、ガインリム		・ハウス立茎栽培	
ピーマン	・ピクシー、みおぎ、浜クロビー	・半促成	
ブロッコリー	・おはよう、サマーポイント	・春まき	

注) 総合技術研修共通栽培品目のみ掲載。

VI 研究発表並びに普及事項

1. 研究報告・資料

(1) 研究報告

○黒島学・市村一雄・鈴木亮子・生方雅男. エラータム系デルフィニウム切り花におけるSTSおよびスクロースを組み合わせた処理が収穫後の品質と花持ちに及ぼす影響. 園芸学研究. 16:197-202 (2017).

○白井佳代. 北海道におけるトマトすすかび病の発生状況. 北海道立総合研究機構農業試験場集報. 102:65-69 (2017).

○白井佳代. 北海道のミニトマト栽培におけるトマト斑点病の発生実態と薬剤の防除効果. 北海道立総合研究機構農業試験場集報. 102:70-75 (2017).

○杉山裕・平井剛・柳田大介・田中静幸. 加熱加工用タマネギ新品種「ゆめせんか」の栽培法と供給可能期間. 北海道立総合研究機構農業試験場集報. 102:41-51 (2017).

○田丸浩幸・後藤英次・林哲央. 露地春まきネギに対する被覆尿素肥料の施用効果. 北農. 84(3):20-25 (2017).

○濱野恵・木村文彦. イチゴ種子繁殖型品種‘よつぼし’の夏秋どり栽培における育苗条件と長日処理が花房数と収量に及ぼす影響. 園芸学研究. 17(1):41-47 (2018).

○Misawa, T., Kayamori, M., Kurose, D., Sasaki, J., Toda, T. First report of *Rhizoctonia* disease of lily caused by *Rhizoctonia solani* AG-11 in Japan. Journal of General Plant Pathology. 83:406-409 (2017).

○三澤知央・美濃健一・角野晶大. *Botrytis squamosa* によるニラ白斑葉枯病に対する各種薬剤の防除効果: 第2報. 北日本病害虫研究会報. 68:85-89 (2017).

○森志郎・阿地春菜・松平聖良・小田島大輔・石川翔太・千石紗矢香・大宮知・黒島学. 高分球性アジアティックハイブリットユリ‘きたきらり’における鱗片繁殖後の球根サイズが抽苔・分球および球根重に及ぼす影響. 園芸学研究. 16:415-420 (2017).

○柳田大介・杉山裕・田中静幸・西田忠志・野田智昭. タマネギ新品種「ゆめせんか」の育成. 北海道立総合研究機構農業試験場集報. 102:29-40 (2017).

(2) 口頭発表

○榎本久美子・柳田大介. イタリアンナス‘ヴィオレッタ・ディ・フィレンツェ’の調査研究(第1報)生育特性と収量性. 北海道園芸研究談話会報. 51:12-13 (2018).

○江原清・鳥越昌隆. セル成型苗サイズおよび収穫方法が加工用トマト品種の果実収量に及ぼす影響. 園芸学研究. 17(別冊1):347 (2017).

○木村文彦・川岸康司. 寒地での無加温半促成栽培におけるイチゴ種子繁殖型品種‘よつぼし’の特性. 園芸学研究. 17(別冊1):320 (2018).

○白井佳代. 北海道におけるタマネギべと病の発生生態と防除. 第5回吉備国際大学植物保護シンポジウム. (2017. 7. 20).

○白井佳代・三澤知央・佐藤豊三. *Colletotrichum coccodes* によるトマト果実腐敗の国内発生. 日本植物病理学会大会. (2018. 3. 25-27).

○杉山裕・柳田大介・田中静幸・大野幸宏. 移植深度がタマネギ長球品種‘すらりっぷ’の球形に与える影響. 園芸学研究. 17(別冊1):177 (2018).

○鈴木亮子. リンドウ切り花の貯蔵条件が外観品質および花持ちに及ぼす影響. 北海道園芸研究談話会. 51:6-7 (2017).

○高濱雅幹・大坪雅史・清水健志・鳥海滋・植野玲一郎・宗形信也・尾崎洋人・中住晴彦. 北海道での冬季栽培におけるリーフレタスおよびコマツナの内部成分および活性変動. 園芸学研究. 16(別冊2):483 (2017).

○高濱雅幹・植野玲一郎・尾崎洋人・宗形信也・中住晴彦. 道南地域でのリーフレタス冬季無加温栽培における定植時期と管理温度の検討. 北海道園芸研究談話会報. 51:20-21 (2018).

○鳥越昌隆・江原清. 加工用トマト‘なつのしゅん’の開花後の積算気温が品質に与える影響. 園芸学研究. 17(別冊1):198 (2017).

○鳥越昌隆、小田義信. スイートコーンにおける生分解性マルチ資材の特性評価. 北海道園芸研究談話会報. 51: 18-19(2017).

○野津あゆみ・三澤知央・美濃健一. 北海道の水稲における各種菌核性病害の発生状況と赤色菌核病菌の越冬. 北日本病害虫研究会. (2018. 2. 15-16).

○古山真一、田縁勝洋. ブロッコリーの省力収穫を目指した品種特性の評価. 北海道園芸研究談話会報. 51: 68-69(2017).

○三澤知央・美濃健一. *Rhizoctonia solani* AG-1 IA, AG-1 IB, AG-1 ICの菌核生存に対する土壌還元消毒の影響. 日本植物病理学会報. 84:59-60(2018).

○柳田大介・榎本久美子. イタリアンナス‘ヴィオレッタ・ディ・フィレンツェ’の調査研究(第2報) 果実の形状と肥大特性. 北海道園芸研究談話会報. 51:14-15(2018).

(3) 著書・資料

○植野玲一郎. カーネーションほか. “北海道フラワーガイド(その26)”. 北海道フラワーガイド編集委員会編. 北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会(2018).

○佐々木純. コムギ縮萎縮病ほか. “新・北海道の病害虫”. 北海道協同組合通信社編. 同発行(2017). (ニューカントリー2017年秋季臨時増刊号).

○白井佳代. ダイズ斑点病ほか. “新・北海道の病害虫”. 北海道協同組合通信社編. 同発行(2017). (ニューカントリー2017年秋季臨時増刊号).

○野田智昭・吉田慎一. MA包装フィルムを用いたブロッコリーの低コスト・鮮度保持流通技術. “青果物の鮮度・栄養・品質保持技術としての各種フィルム・包装での最適設計”. 株式会社AndTech編. 同発行(2018)51-57.

○美濃健一. コムギ褐色雪腐病ほか. “新・北海道の病害虫”. 北海道協同組合通信社編. 同発行(2017). (ニューカントリー2017年秋季臨時増刊号).

○柳田大介. いちごほか. “北海道野菜地図(その41)”. 北海道野菜地図編集委員会編. 北海道農業協同組合中央会・ホクレン農業協同組合連合会(2018).

(4) 専門雑誌・記事等

○木村文彦. 大きくてよくとれる! いちご「ゆきララ」. アグリポート. 10: 17-18(2017).

○後藤英次. 春夏蒔きレタス 結球・非結球の品種特性、窒素施肥法が明らかに. ニューカントリー. 65(1): 84-85(2018).

○後藤英次. 北海道さつまいも懇話会現地見学会を開催. 農家の友. 70(1): 73-75(2018).

○白井佳代. なるほど新技術 ミニトマト. ニューカントリー. 64(7): 54-55(2017).

○鈴木亮子. 切り花ダリアの新しい出荷技術. 施設と園芸. No.180. 34(2017)

○田丸浩幸. 役に立つ肥料の知識 窒素質肥料の種類と特徴. ニューカントリー. 64(8): 44-45(2017).

○野田智昭・吉田慎一. ブロッコリーの輸送経費をMA包装フィルムで3割削減. ニューカントリー. 64(5): 56-57(2017).

○吉田慎一・野田智昭. MAフィルムを利用したブロッコリーの輸送技術開発. 包装技術. 56(2): 21-26(2017).

(5) 新聞記事・広報誌、放送等

○白井佳代. ミニトマト斑点病・葉かび病・すすかび病の特徴と防除法. アグリポート. (8): 17-18(2017).

○白井佳代. ミニトマトの斑点病・葉かび病・すすかび病の特徴と防除法. 日本農業新聞. (2018. 3).

○野田智昭. 冬の営農塾 氷なしでもシャキッと新鮮! ブロッコリーの低コスト流通法. 日本農業新聞. (2018. 3).

(6) 出願公表

該当なし

(7) 品種登録

○八木亮治・地子立・平井剛・福川英司・木村文彦・田中静幸・佐藤昌一・佐藤善蔵・佐藤公治. メロン「おくり姫」. 登録番号25998号(2017. 6. 5)

○八木亮治・地子立・平井剛・福川英司・木村文彦・佐藤昌一・佐藤善蔵・佐藤公治. メロン「DH

M-R5」. 登録番号 25999 号 (2017. 6. 5)

○八木亮治・地子立・平井剛・福川英司・木村文彦・田中静幸・佐藤昌一・佐藤善蔵・佐藤公治.

メロン「DHM-R6」. 登録番号 26009 号 (2017. 6. 14)

○柳田大介・田中静幸・入谷雅樹・駒井史訓・小谷野茂和・西田忠志・野田智昭. たまねぎ「KTM 9843-02-01A」登録番号 26446 号 (2018. 1. 30)

○柳田大介・田中静幸・入谷雅樹・駒井史訓・小谷野茂和・西田忠志・野田智昭. たまねぎ「KTM 9843-02-01B」登録番号 26447 号 (2018. 1. 30)

(8) 受賞

該当なし

2. 印刷刊行物

該当なし

3. 普及事項

(1) 普及奨励事項

該当なし

(2) 普及推進事項

該当なし

(3) 指導参考事項

○加工用にんじんの品種特性

○スイートコーンにおける生分解性マルチ資材の特性評価

○さつまいもにおける緩効性肥料を用いた窒素・カリ施肥法の改善

○たまねぎの軟腐病に対する銅（塩基性硫酸銅）水和剤 F (26.9 % (Cu14.8 %)) の効果

○たまねぎの灰色腐敗病に対するピコキシストロビン水和剤 F の効果

○たまねぎの灰色腐敗病に対するピラジフルミド水和剤 F (未登録) の効果

○たまねぎの灰色腐敗病に対するマンデストロビン水和剤 F (未登録) の効果

○たまねぎの小菌核病に対するピコキシストロビン水和剤 F の効果

○たまねぎの小菌核病に対するピラジフルミド水

和剤 F (未登録) の効果

○たまねぎの小菌核病に対するマンデストロビン水和剤 F (未登録) の効果

○すいかのうどんこ病に対するピリオフェノン水和剤 F の効果

○メロンのうどんこ病に対するピリオフェノン水和剤 F の効果

(4) 研究参考事項

該当なし

Ⅶ その他

1. 職員の研修

(1) 職場外研修（階層別、能力開発）

受講者	研修項目	実施機関	場所	期間
市川 雅一	会計制度研修	道総研本部	札幌市	29. 4. 24 ~ 29. 4. 24
古山 真一	新規採用職員研修	道総務部	札幌市	29. 4. 19 ~ 29. 4. 21

(2) 職場研修等（集合・伝達研修）

研修等	実施月日	内 容	人数
伝達研修(倫理)	7/ 6	個人情報等の適正管理	31人
伝達研修(情報セキュリティ)	9/21	情報セキュリティ(自己点検)	31人
伝達研修(農作業安全)	10/13	公務災害及び労働災害の発生	31人
伝達研修(交通安全)	11/ 7	交通事故・違反の防止	31人
伝達研修(危機管理)	12/25	灯油タンク点検、灯油漏出事故防止	31人
伝達研修(交通安全)	2/20	交通事故・違反の防止	31人

2. 見学・参観

月日	団 体 名	人数
5/24	滝川市広報聴係(市民)	35
6/8	由仁町4Hクラブ	13
6/14	オニオン生産組合(JA音更町)	9
7/4	JAいわみざわ女性部栗沢支部 くりさわマンマの会	9
7/4	ホクレン農業協同組合連合会	40
7/4	さくらんぼ部会(JAホーツ)	10
7/5	富良野緑峰高等学校 農業特別 専攻科	11
7/6	こうざい農園	2
7/7	美瑛町農業協同組合青年部	25
7/10	JAそらち南農協苺苗部会	17
7/14	富良野市富丘地区婦人会	10
7/18	JAいしかり長芋部会	13
7/18	秩父別町企画課企画G	3
7/19	さがみ農業協同組合	5
7/20	音更町農業協同組合	1
7/16	栃木市議会	14
7/27	拓殖大学北海道短期大学	59
8/16	北海道富良野緑峰高校	5
8/21	滝川市議会 農業振興議員団	9

月日	団 体 名	人数
8/22	美瑛町農林課	12
8/22	栗山町農業振興公社	10
8/30	三浦農園(美唄)	6
9/12	たきかわ観光ボランティア「つ う」フレンド	22
9/20	北大大学院農学研究院	42
9/28	広島県立西条農業高等学校	27
9/28	空知農業改良FC北空知支所	4
10/18	JICA北海道 (キルギス共和国)	14
10/15	空知農業改良FC北空知支所	20
11/17	月形町農業委員会	12
11/22	ニセコ農事組合	15
12/12	ホクレン函館支所	4
1/17	上富良野町 (中山間地域直払 東中集落)	15

月	団体数	人 数
4月	0	0
5月	1	35
6月	2	22

月	団体数	人数
7月	14	219
8月	5	42
9月	4	95
10月	2	34
11月	2	27
12月	1	4
1月	1	15
2月	0	0
3月	0	0
合計	32団体	493人

3. 研修生の受入れ（研修事業以外）

(1) 普及指導員研修

1) 専門技術研修（野菜） 7/3～7/7

研修項目	対象者	担当
主要野菜の現場対応に必要な課題解決手法の習得	後志(本所)	土生恵好
	渡島(本所)	山口泰輔
	檜山(本所)	村井翼
	網走(本所)	永山毅
		技術普及課、技術普及室、技術研修G、花き野菜G、生産環境G

2) 専門技術研修（花き） 7/3～7/7

研修項目	対象者	担当
主要花きの現場対応に必要な課題解決手法の習得	空知(北空知)	鴨下孝子
		技術普及課、技術普及室、技術研修G、花き野菜G、生産環境G

3) 高度専門技術研修（花き）

6/19～6/23, 7/24～7/28, 9/25～9/29

研修項目	対象者	担当
花き栽培に係る新技術および調査研究手法の習得	石狩(本所)	鹿野理
	上川(士別)	柿崎由紀
		技術普及課、技術普及室、技術研修G、花き野菜G、生産環境G

4) 新任者早期養成研修（新任者Ⅱ）

11/8～11/10

研修項目	対象者	担当
自己課題研修の進度確認と普及指導能力の向上	空知(本所)	石川翔太
	ほか新任2年目の普及職員21名	技術普及課、技術普及室

4. 委員会活動

(1) 各専門委員会の名簿

(平成29年4月1日現在)

ア. 業務委員会

福川英司（委員長）、岩橋広樹（総務課）、木村文彦（花き野菜G）、野田智昭、白井佳代（生産環境G）、柳田大介、南貴夫、寺口佳孝（技術研修G）

イ. 環境整備委員会

鳥越昌隆（委員長）、岩橋広樹（総務課）、後藤英次（生産環境G）、植野玲一郎、玉川忠（技術研修G）

ウ. 情報・図書委員会

美濃健一（委員長）、市川雅一（総務課）、古山真一（花き野菜G）、後藤英次（生産環境G）、高橋英樹（技術研修G）、佐々木純（システム委員）

エ. 研修事業委員会

V 研修事業の概要参照

(2) 各専門委員会の活動

1) 業務委員会

ア. 業務委員会の開催

- (ア) 通常：4月6日～11月22日、毎週1回
- (イ) 冬期：11月30日～3月29日、毎月1回
- (ウ) 拡大：4月20日

イ. 主な検討事項

- (ア) 週間・月間作業計画
- (イ) ほ場、ハウス、温室等施設の利用計画
- (ウ) ほ場の整備工事（排水路、暗渠）
- (エ) ハウスの張り替え計画
- (オ) その他

ウ. 主催行事

- (ア) 蒔付祝い 6月22日
- (イ) 収穫祭 10月20日

2) 環境整備委員会

- ア. 庁舎前花壇：マリーゴールド他（6/22）、チューリップ（10/11）の定植
- イ. 旧十勝道路沿い：ハマナス、アジサイ等の除草、冬囲い
- ウ. その他敷地内：防風林剪定、枯木の除去

3) 情報・図書委員会

ア. 情報図書委員会の開催

- ・第1回情報図書委員会(5月12日): 活動・予算計画
- ・第2回情報図書委員会(3月16日): 活動の総括、次年度への懸案事項、年報原稿依頼、見学案内原稿依頼

イ. 見学案内に関すること

- ・見学案内資料の作成
- ・見学案内リハーサルの開催(6月13日)
- ・普及センター等への参加呼びかけ
- ・ハウス群の試験内容の掲載徹底

ウ. 場の広報に関すること

- ・平成28年度年報の作成と公開。
- ・ロビー設置ポスターおよびちらしの展示・更新(技術研修Gに実施いただいた)

エ. 法人情報システム(含むホームページ)の管理・運営に関すること

- ・HPの更新(研修情報他広報関連10回、事務関連3回の合計13回更新)
- ・場代表アドレスの管理(研究部長対応)

オ. 図書の整備(購入)および管理に関すること。

- ・図書資料の受け入れと購入
- ・成績書および定刊等の製本
- ・雑誌類や成績書の簡易製本の実施
- ・簡易製本機の更新

5. 公開デー2017の実施

8月4日(金)に実施。

(来場者数: 220名)

(1) 屋内会場の催し物

- フラワーデザインセミナー(技術研修G)
- 花の色を変える実験(花き野菜G)
- 病虫害診断コーナー(生産環境G)
- 土壌診断コーナー(生産環境G)
- 園芸相談コーナー(技術普及室)
- パネル展示コーナー
- YES!clean展示
- 園芸関係書籍販売コーナー(農文協)
- 展示温室: ゴーヤ、ハーブ、ピーマン、花壇苗、風船カズラ、オクラ、なす

(2) 屋外会場の催し物

- メロン品種の試食(花き野菜G)
- 苗当てクイズ(花き野菜G)
- 農業機械展示(技術研修G)
- リクガメふれあいコーナー
- 飲食及び農産加工品直売コーナー
 - ・滝川食と農を考える女性の会
 - ・手作りの家とまと
- バスによる圃場見学
- 研修生による生産物の試食、販売

6. 講師等の派遣

- 江原清. 道内における加工用トマト産地の現状と機械化栽培体系に向けた取り組み. 加工用トマトセミナー(2018. 2. 9)
- 木村文彦. いちご栽培の基礎について. JAびつぷ町いちご栽培研修会(2018. 1. 15)
- 白井佳代. ミニトマトの斑点病・葉かび病・すずかび病の特徴と防除法について. JAしずない野菜振興会・ミニトマト部会合同講習会(2017. 4. 5)
- 鈴木亮子. 暮らしのなかに北海道の花を. 札幌花き市場まつり(2017. 7. 16)
- 田縁勝洋. 加工用にんじんの品種特性試験. 北海道野菜セミナー2018(2018. 2. 9)
- 鳥越昌隆. 花・野菜技術センターの試験の取り組みについて. キングメルテール会(2017. 11. 30)
- 野田智昭. 氷なしでもシャキッと新鮮! ブロッコリーの低コスト流通技術. 地域活性・販路拡大支援セミナー(2017. 10. 4)
- 野田智昭. 施設を利用した予冷、貯蔵による農産物の鮮度保持. 北海道立農業大学校(2017. 10. 27)
- 野田智昭. 氷なしでもシャキッと新鮮! ブロッコリーの低コスト流通技術. 新製品開発・販路拡大支援セミナー(2017. 11. 24)
- 野田智昭. 氷なしでもシャキッと新鮮! ブロッコリーの低コスト流通技術. アグリテクノフェア in北海道(2018. 3. 13)
- 柳田大介. 遺伝学全般、F1品種と固定種の採種について. 北海道若手女性農業者集団「Links(リンクス)」.(2017. 12. 5)

○柳田大介. 特別講義(二)『医食農連携のススメ』学部2年生対象 テーマ「医食農連携のススメ～たまねぎの育種を通じた機能性開発」. 東京農業大学生物産業学部 (2017. 11. 16)

○柳田大介. たまねぎの早出し栽培について. 共和町青年農業者の会「スケアクルーの会」.
(2018. 2. 23)

7. 各種委員

○植野玲一郎. 北海道フラワーガイド編集委員

○植野玲一郎. 北海道園芸研究談話会会計幹事

○川岸康司. 北海道フードマイスター検定運営委員、原稿小委員

○川岸康司. 園芸学会平成29年度秋季北海道大会実行委員

○黒島学. 園芸学会平成29年度秋季北海道大会実行委員

○鈴木亮子. 園芸学会平成29年度秋季北海道大会実行委員

○鳥越昌隆. 園芸学会平成29年度秋季北海道大会実行委員

○福川英司. 日本植物調節剤研究協会専門調査員

○柳田大介. 北海道野菜地図編集委員

Ⅷ 自己点検への対応

事 項	件数等		
	H29	H28	H27
各機関へ直接寄せられたニーズ把握件数	0	4	5
研究成果発表会・企業向けセミナーの開催件数	1	1	3
同参加者数	77	366	314
研究会等の開催件数	0	0	0
展示会等への出展件数	2	1	1
研究報告書の発行件数	2	1	1
技術資料の発行件数	2	1	0
その他紙媒体発行件数	0	0	0
普及組織との連絡会議等開催件数	8	26	19
企業等へ訪問し広報活動した件数	3	1	14
行政や企業等で活用された成果の数	0	0	1
設備使用の件数	0	0	0
研究成果発表会・企業向けセミナーによる公表件数	12	13	16
研究会における公表件数	0	0	0
学会誌等への投稿件数①学会誌	10	7	2
学会誌等への投稿件数②雑誌（専門誌、商業誌）	13	27	22
学会誌等への投稿件数③書籍	3	0	0
学会誌等への投稿件数④新聞	2	2	1
学会誌等への投稿件数⑤その他	0	0	2
研究報告書での発表件数	0	2	2
学会やシンポジウム等での発表件数	17	6	13
ホームページ等による公表件数	1	0	0
プレスリリース、定例報道懇談会の件数	8	9	3
学会役員・委員件数	9	12	14
技術相談の実施件数	95	143	81
技術指導の実施件数	1	3	7
講師等派遣の実施件数	7	10	8
技術審査の実施件数	2	0	2
研修会・講習会の開催件数	9	9	9
同参加人数	465	573	586
研修者の受入人数	40	69	163
道関係部との連絡会議等の開催件数	13	33	34
市町村との意見交換等の開催件数	0	1	1
関係団体との意見交換等の開催件数	13	4	6

事 項	件数等		
	H29	H28	H27
道民意見把握調査の回答数	286	276	78
出前授業の実施件数	0	2	0
国内研修Ⅱ（外部講師招聘・受け入れ件数）	0	0	0
国内研修Ⅰの派遣件数	0	0	0
国内研修Ⅱの派遣件数	2	2	2
道民向けイベントの開催件数	1	3	3
同参加人数	220	390	228
国際協力事業等への協力件数	3	6	7
同参加人数	27	41	24
災害等に関係した技術指導件数	0	0	0
災害等に関係した委員派遣人数	0	0	0
ホームページ発信・更新件数	11	13	2
メールマガジン発信件数	0	0	0
フェイスブック発信件数	0	0	0
その他電子媒体発信件数	0	49	31
職場研修実施件数	7	4	3
グリーン購入の金額（千円）	925	3,611	997
視察・見学者の受入件数	32	34	35
同人数	493	465	646

ISSN 1346-7506

平成29年度 (2017)

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
花・野菜技術センター年報

平成30年10月 発行

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
農業研究本部 花・野菜技術センター

〒 073-0026 北海道滝川市東滝川735番地

Tel. 0125-28-2800

Fax. 0125-28-2165 (総務課)

Fax. 0125-28-2299 (研究部、技術普及室)
